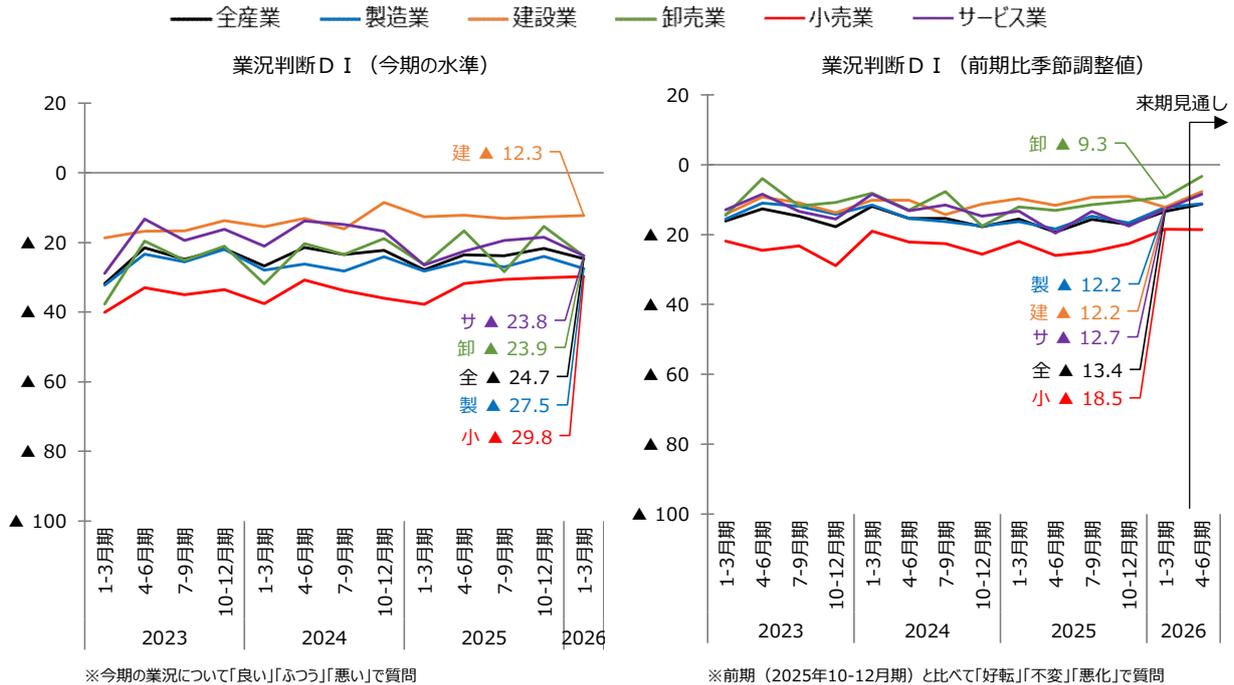


# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 近畿



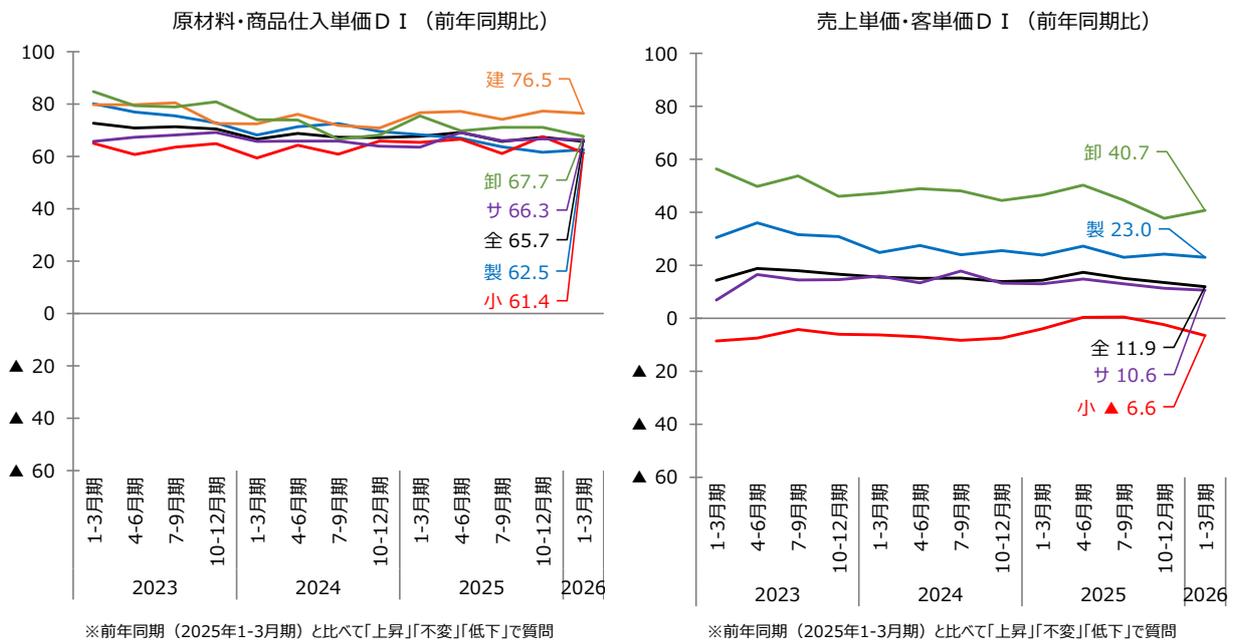
## 1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年10-12月期）より3.0ポイント減の▲24.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、製造業で低下した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の65.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、卸売業、建設業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の11.9と3期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業  
 今期の調査対象企業数：18,825 有効回答企業数：17,895 有効回答率：95.1% うち、近畿：2,519企業

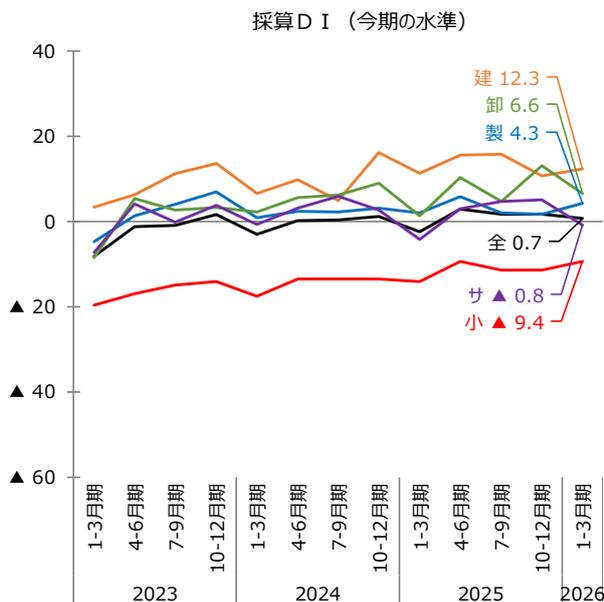
※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

# 第183回 中小企業景況調査（2026年1-3月期） 近畿



## 3. 採算

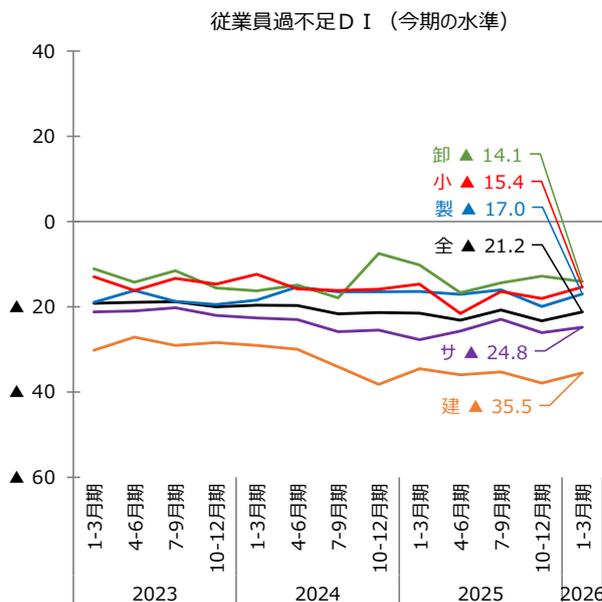
採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の0.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

## 4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.1ポイント増の▲ 21.2と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

## 5. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	人件費の増加に加え、原材料費の値上げが続き、利益確保が厳しい状況である。	製造業 医薬品製剤製造業
	中小企業として2025年12月に建設業法が変わり、適正価格があがってしまう。リフォーム・新築でも法的決め事が多くなり対応が大変なうえ、経費も増える一方。会社の一員・労働者としての人材確保教育が難しい。	建設業 木造建築工事業
	新規事業として立ち上げた食品関連が軌道には乗りつつあるが、初期の顧客の通販紙面掲載が続き、利益率が減少気味。新しく獲得した売上が相殺されている現状に少し懸念される点がある。	卸売業 野菜卸売業
	コメパニックが終わり、余り気味の米に販売価格がだんだん低下していき、当方も見習って価格をさげたりしておりますが、追いつきません。	小売業 米穀類小売業
	今期は大雪の影響により来店客数が減少したため、売上・利益減となった。仕入原価の上昇分の価格転嫁が追い付いていない。	サービス業 酒場、ピヤホール
見通し	2025年秋ごろから全般に急速に業況が悪化している。半導体関連の受注も落ち込んでいるが、3～4月頃には回復するだろうとの見立てもあり、期待している。	製造業 発泡・強化プラスチック製品加工業
	仕入れ価格等の高騰により、需要の低下があり、今後の見通しが悪い。	建設業 木造建築工事業
	万博やインバウンド需要が一服し、踊り場の様相。設備投資は堅調さが続くと思われ、引合いはそれなりにあるが力強さに欠ける。人件費やその他の経費の増加、借入金利上昇等のコスト増が懸念される。	卸売業 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	1～3月は天候の影響で売上が昨年の50%程度の予想。客数の減少も天候によるものと思われる。客単価は減少していないので3月後半から持ち直すものと思われる。	小売業 食品スーパーマーケット
	設備投資するにも先行き不安がある。（従業員の確保も不安である。）	サービス業 自動車一般整備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)